

こども文教委員会  
令和2年11月13日

教育委員会事務局 資料2番

所管 教育総務課

## 令和元年度

# おおた教育ビジョンの事業実績と評価

### ～大田区教育委員会行政評価結果報告書～

豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる

令和2年10月

大田区教育委員会

## はじめに

大田区教育委員会では、大田区の教育の5か年計画として重要施策を取りまとめた「おおた教育ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を令和元年6月に策定いたしました。このビジョンの推進にあたっては、より実効性を高めるため、毎年取組の状況について点検・評価を実施することとしております。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条では、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行うことが義務付けられております。

以上のことから、この度、ビジョンの令和元年度実施状況の点検・評価を行い、報告書として取りまとめました。点検・評価の実施にあたりましては、今後の教育施策の参考とさせていただくために、学識者の視点として堀内一男氏に依頼し、ご意見をいただき掲載しております。

本報告書につきましては、区民の皆様に対して、教育に関する事業の実施状況を説明させていただくため、区議会に提出するとともに、ホームページにより公表いたします。

大田区教育委員会は、これからの社会を担う子どもたち一人ひとりが未来社会の変化にしなやかに対応するとともに、主体的に社会に参画し、新たな知識や価値を創り出し、豊かに生きていく力をはぐくむことができるように、今回の点検・評価の結果を踏まえ、大田区の教育が一層充実したものとなるよう努めてまいります。そのためにも、これまで以上に、学校、家庭、地域、行政の連携を深め、各施策に取り組んでまいります。

令和2年10月 大田区教育委員会

## 目 次

<b>I 令和元年度「おおた教育ビジョン」の事業実績と評価</b> . . . . .	<b>1</b>
「おおた教育ビジョン」体系図 . . . . .	<b>2</b>
「成果指標」 実績・評価一覧 . . . . .	<b>3</b>
「評価事業」 実績・評価一覧 . . . . .	<b>9</b>
<b>II 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る有識者意見</b> .	<b>17</b>

## I 令和元年度「おおた教育ビジョン」の事業実績と評価

おおた教育ビジョンで特に重視する「未来を創る力の育成」(プラン1)にかかわる24事業について、下記の判定基準に基づき、令和元年度の事業実績の評価を行いました。

評価結果は、全ての事業において「評価B」となりました。

各事業の実績及び評価の詳細については、事業評価シートのとおりです。本件、事業実績評価の実施により、各事業の成果及び課題を把握することで、効果的・効率的な事業執行を図るとともに、計画を推進してまいります。

### ○判定の基準

A	事業計画を上回る実績があった
B	概ね事業計画どおりの実績があった
C	実績が事業計画を下回った



「成果指標」実績・評価一覧

プラン区分	目標	成果指標						成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標 以外の参考数値
		年度	H30	R1	R2	R3	R4			
プラン1 未来社会を創造的に生きる子どもたちの育成【未来】	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に合わせた対応する子どもたちの自信を身に付けます。	英語検定3級以上を取得している生徒の割合(中学校第3学年) ◎実用英語技能検定	目標	(基準値) 32.8%	 (目標値) 60.0%			○今年度から、大田区立中学校第3学年全生徒を対象に公費負担による実用英語技能検定を実施しました。成果指標の令和元年度実績数値は47.4%で、平成30年度の32.8%から14.6ポイント上昇しました。これは、区立中学校において放課後及び土曜日に実施している補習教室での基礎・基本の確実な定着や、外国語教育指導員の配置によるコミュニケーション能力の育成による成果とと考えています。 ○今後も、大田区立中学校実用英語検定を継続し、令和5年度での目標値である60.0%の達成に向けて、生徒の英語学習の意欲向上を図りたいと考えています。		
		実績		47.4%						
理科・期待正答率を超えた生徒の割合(中学校第1学年) ◎大田区学習効果測定		理科・期待正答率を超えた生徒の割合(中学校第1学年) ◎大田区学習効果測定	目標	(基準値) 62.7%	 (目標値) 68.0%			○成果指標の令和元年度実績数値は63.1%で、平成30年度の62.7%に対し、0.4ポイント上昇しました。これは、夏の小学校理科授業力向上研修において、小学教授等を講師に招き、各学年の中で課題となっていた単元を取り上げて実施したことにより、教員の授業力向上につながった結果であるとと考えています。 ○令和2年度からは、小学校理科指導専門員を4名配置し、各学校に巡回し、指導・助言をすることで、さらに教員の授業力向上を推進し、児童の学力向上へつなげていきたいと考えています。		
		実績		63.1%						

プラン区分	目標	成果指標					成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標 以外の参考数値
		年度	H30	R1	R2	R3			
	コンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集し、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる」と答えた児童の割合(小学校第6学年) ◎大田区教育委員会調査	目標	(基準値) 38.5%					<p>○成果指標の令和元年度実績数値は41.6%で、平成30年度の38.5%に対し、3.1ポイント上昇しました。増配した学習者用タブレット型パソコンを活用し、児童の意見を特別教室に配備したスライドレール式電子黒板に表示することで、全員のものを見ながら児童に対して情報収集、整理分析、まとめ表現といった一連の流れを主体的に対話を通して深い学びを実現するなど考えています。</p> <p>○今後も、現在配備されている機器を効果的に活用して授業改善に努め、目標値を達成することができよう各校の取組みを支援していきたいと考えています。</p>	
		実績		41.6%					
	「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒の割合(中学校第3学年) ◎全国学力・学習状況調査	目標	(基準値) 76.1%					<p>○成果指標の令和元年度実績数値は71.6%で、平成30年度の基準値76.1%に対し、4.5ポイント減少しました。</p> <p>○令和3年度から中学校新学習指導要領の全面実施に向けて、授業改善リーダー研修を通して主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、生徒の話し合う活動を様々な授業において設定することで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、取り組んでいきたいと考えています。</p>	
		実績		71.6%					

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善と、個に応じた指導を徹底するため、授業でのICT機器のさらなる活用を図ります。

大田区教育委員会調査で「コンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集して自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる」と答えた小学校第6学年児童の割合は、平成30年度は38.5%でした。

成果指標は、上記調査項目の結果とし、令和5年度には、50.0%まで引き上げるとをめざして取り組んでいきます。

グローバル化が進展し、多様化・複雑化が一層進む社会を生きていく子どもたちには、異なる価値観の理解とともに、その中に共通性を見出していく、ともに生きる心を育てることが重要です。ともに生きる心の育成につながる基礎的な力として、話し合いを通じて考えを深める力を育てることが必要です。

平成30年度の全国学力・学習状況調査では、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることできていると答えますか」という質問に対し、区立中学校第3学年の肯定的回答の平均値は76.1%でした。同調査では、東京都76.0%となっております。

「全国学力・学習調査」の項目に肯定的に回答する中学校第3学年の割合を成果指標として設定し、令和5年度には、平成30年度より3.9ポイント増の80.0%まで引き上げることをめざして取り組んでいきます。

プラン区分	目標	成果指標					成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標以外の参考数値		
		年度	H30	R1	R2	R3				R4	R5
プラン2 学力の 向上 【知】	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	「運動をもっとしたい」と答えた児童の割合(小学校第6学年)	目標 (基準値) 55.45%						○成果指標の令和元年度実績数値は55.5%で、平成30年度の55.45%に対し、0.05ポイントと変化しませんでした。 ○今後は、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わえることができる授業改善に励み、各校が体育の授業において増配した学習者用タブレット型パソコンを活用しさまざまなスポーツの動画を見たり、友達の間で動画を共有し、比較してみたり、友達の間で動画を共有し、比較してみたいと考えています。	○成果指標の令和元年度実績数値は68.9%で、平成30年度の64.5%に対し、4.4ポイント上昇しました。これは、従来から実施している初任者研修、2・3年次研修、授業改善セミナー、授業改善リーダーによる授業改善のポイントの解説等の実施や、習熟度別指導、放課後・土曜補習教室等を実施することによる成果として表れたと考えています。 ○今回評価対象となった学年は、平均正答率及び達成率が高い学年であったため、本年度以降も注視していく必要があると考えています。	<東京都学力調査の正答率(数学)> 中学校第2学年対象> 令和元年 都54.5% 区50.9% 平成30年 都53.0% 区51.5% 平成29年 都54.2% 区49.4% ※中学校第3学年は調査対象外です。 <全国学力調査の正答率(数学)> 第3学年対象> 【A】(主として知識)、【B】(主として活用) 令和元年 国59.8% 都62% 区60% 平成30年 【A】国66.1% 都67% 区64% 【B】国46.9% 都49% 区47% 平成29年 【A】国64.6% 都66% 区64% 【B】国48.1% 都50% 区49% ※令和元年度から【A】【B】問題は統合されました。
		実績		55.50%							
プラン2 学力の 向上 【知】	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	「運動をもっとしたい」と答えた児童の割合(小学校第6学年)	目標 (基準値) 64.5%					おおた教育振興プラン2014の学力向上アクションプランでは、基礎学力の定着の度合いを測る成果指標として、大田区学習効果測定の中で、積み重ねの教科である数学の中学校第3学年の期待正答率を設定しました。平成30年度の目標値を期待正答率62.0%とし、学力向上に向けた取組を推進した結果、平成30年度の期待正答率は64.5%となり、目標を達成しました。また、国語、社会、理科を含めた4教科の達成率についても全教科で平成25年度の達成率を上回り、学力の向上を推進することができました。 しかし、全国での学力向上に向けた取組も推進され、全国の達成率も向上しており、平成30年度中学校第3学年数学の全国達成率は65.7%でした。そこで、成果指標は引き続き、大田区学習効果測定中学校第3学年の達成率とし、令和5年度の目標値を平成30年度の全国の達成率である65.7%とします。	○成果指標の令和元年度実績数値は68.9%で、平成30年度の64.5%に対し、4.4ポイント上昇しました。これは、従来から実施している初任者研修、2・3年次研修、授業改善セミナー、授業改善リーダーによる授業改善のポイントの解説等の実施や、習熟度別指導、放課後・土曜補習教室等を実施することによる成果として表れたと考えています。 ○今回評価対象となった学年は、平均正答率及び達成率が高い学年であったため、本年度以降も注視していく必要があると考えています。	<東京都学力調査の正答率(数学)> 中学校第2学年対象> 令和元年 都54.5% 区50.9% 平成30年 都53.0% 区51.5% 平成29年 都54.2% 区49.4% ※中学校第3学年は調査対象外です。 <全国学力調査の正答率(数学)> 第3学年対象> 【A】(主として知識)、【B】(主として活用) 令和元年 国59.8% 都62% 区60% 平成30年 【A】国66.1% 都67% 区64% 【B】国46.9% 都49% 区47% 平成29年 【A】国64.6% 都66% 区64% 【B】国48.1% 都50% 区49% ※令和元年度から【A】【B】問題は統合されました。	
		実績		68.9%							

プラン区分	目標	成果指標						成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標 以外の参考数値
		年度	H30	R1	R2	R3	R4			
プラン3 豊かな心の育成 【徳】	子ども一人ひとりの健全な正義感や自己肯定感、自己有用感等を高めるとともに、自他の生命の尊重する心を育成する等、未来への希望に満ちた豊かな心を育みます。	「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合(小学校第6学年) ◎全国学力・学習状況調査	目標 (基準値) 82.2%					(目標値) 84.0%	○成果指標の令和元年度実績数値は81.7%で、平成30年度の82.2%に対し、0.5ポイント減少しました。 ○今後は、より児童が自分の良さを意識することができるように、教職員は児童の良さをほめる指導を行うと共に、特に道徳科における学習を充実させ、自分自身を振り返る活動を効果的に取り入れていくことで自己肯定感の向上を目指していきたいと考えています。	
プラン4 体力の向上と健康増進 【体】	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上等、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上を図ります。	体力合(小学校第6学年男女) ◎東京・東京都児童・生徒体力・運動能力・生活・運動習慣等調査	年度 目標 (基準値) 男子 60.31点 女子 61.65点	81.7%				(目標値) 男子 60.62点 女子 61.68点	○成果指標の令和元年度実績数値は男子59.52点、女子60.84点で、平成30年度の男子60.31点、女子61.65点に対し、男子は0.79点、女子は0.81点減少しました。これは体力向上プログラムの活用等により、長座体前屈、反復横とび、ソフトボール投げの記録は上昇傾向になりましたが、成果指標の結果は減少となりました。 ○令和2年度の実施にあたっては、体力調査実施報告書を作成し、その中で体力向上プログラムを掲載するなど各校における体力向上の取組の徹底を十分に図り、成果につなげていきたいと考えています。	

プラン区分	目標	成果指標					成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標 以外の参考数値											
		年度	H30	R1	R2	R3				R4	R5									
プラン5 魅力あふれる教育環境づくり 【学校・教職員】	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、指導教員が力向上と良質な教育環境をつくりまします。	目標 年度	標準値 (基準値) 60.59%					目標 年度	目標値 65.59%											
	「子どもたちに安心して学校生活を送るために、指導教員が力向上と良質な教育環境をつくりまします。」	実績	61.29%					児童・生徒の学校生活の基本となる授業において、各学校が保護者・地域への授業公開時に実施するアンケートの共通項目である「子どもたちにとって分かりやすい授業をしていた。」及び「子どもたち一人ひとりの活動が充実していた。」に「とてもあてはまる」と回答をした割合を成果指標として設定し、教員の指導力向上、授業の改善・充実に努めます。	○成果指標の令和元年度実績数値は57.70%で、平成30年度の60.59%に対し、2.89ポイント減少しました。 ○今後は全ての授業において、ICT機器を活用し補足資料の充実などとともにICT活用推進リーダーを活用し教員の指導力向上、授業の改善・充実に努めます。	令和元年度 保護者アンケート1・2・3学期集計結果(3/31現在)	小学校	中学校	計	計	計	計	計	計	計	計
プラン6 学校・家庭・地域が一体となつてすすめる教育 【学校・家庭・地域】	学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現をめざします。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みをつくりまします。 学区民が生涯を通じて学び続ける拠点として図書館機能の充実を図り、学びの機会による地域づくりを進めます。また、地域の歴史・文化資源の保護、活用を進めます。	目標 年度	標準値 (基準値) 57,753人					目標 年度	目標値 65,000人											
	「学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現をめざします。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みをつくりまします。」	実績	53,292人					学校支援地域本部の事業に参加した地域ボランティアの数は、平成26年度はおよそ2万5,000人でしたが、平成27年度は大幅に増加して4万人を超えています。その後増加していき、平成30年度は約5万8,000人となっています。今後も、学校と地域をつなぐパイプ役である学校支援コーディネーターのスキル向上を図るとともに、地域に学校支援地域本部活動を周知し、地域ボランティアの層の増加を図ります。	○令和元年度の学校支援地域本部の事業に参加したボランティアの数は53,292人で、平成30年度の57,753人から4,461人減少しました。これは、学校の臨時休業による影響によるものと考えています。 ○各校のコーディネーターを中心に、地域の方や保護者の協力のもと充実した内容で実施され、学校・家庭・地域の連携・協力は着実に深まっています。今後とも、コーディネーターのスキルアップや情報提供等、学校支援地域本部活動の活性化に努めます。		小学校	中学校	計	計	計	計	計	計	計	計

プラン区分	目標	成果指標						成果指標の説明	令和元年度 成果指標の実績評価 (成果・課題等)	令和元年度 成果指標 以外の参考数値	
		年度	H30	R1	R2	R3	R4				R5
	「今住んでいる地域の行事に参加しますか」「あてはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合(小学校第6学年) ◎全国学力・学習状況調査	目標	(基準値) 49.9%						<p>地域の行事に参加することを通して、地域に対する愛着が深まり、魅力ある地域を創造していくようとする素地が養われま</p> <p>す。平成30年度の全国学力・学習状況調査では「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「あてはまる」「どちらかといえ</p> <p>ば、当てはまる」と答えた児童の割合は49.9%でした。同調査では、全国及び東京都の平均値を下回っています。区</p> <p>地域の課題を進んで解決しようとする、区民が育つよう、全国学力・学習状況調査の「今住んでいる地域の行事に参加して</p> <p>いますか」の項目に肯定的に回答する小学校第6学年の割合を成果指標として設定し、令和元年度の実績を保てるように、引き続き取り組んでいきます。</p>	<p>○成果指標の令和元年度実績数値は53.9%で、平成30年度の49.9%に対し、4ポイント増加し東京都平均を上回ることができました。</p> <p>○今後も引き続き、学校は地域活動を行う団体と一層の連携・共同を図るとともに、児童・生徒に地域行事及び生徒の地域ボランティアとしての参加を呼びかけていきます。</p>	

「評価事業」実績・評価一覧

プラン名		プラン1 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】			
目標		コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力など、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもを身に付けます。			
通番	事業名	事業概要	令和元年度 事業実績		
			評価		
			成果・課題と今後の方向性		
			指導課		
1	小学生漢字検定	<p>小学校の全児童を対象に習熟度合いの把握や目標設定の機会として漢字検定を実施し、日本語の重要な要素である漢字の基礎・基本の確実な定着を図ります。</p>	<p>○令和元年9月11日から18日及び令和2年2月10日から14日において、全小学生を対象に、各小学校が実施日を一日設定し、全学年が同日に1単位時間内で実施しました。</p>	<p>○漢字検定の問題を業者に外部委託したことで、広い見地に基づいた問題作成が行われ、質の向上につながりました。</p> <p>○今後は、業者が作成した問題及び解答の内容について、指導課で確認をした際に修正することが無いように、業者に依頼し、小学生が問題内容や採点結果に疑問をもつことが無いようにする必要があると見られます。</p>	指導課
2	作文指導教材	<p>作文指導教材「書くって楽しいね」を効果的に活用し、文章を書くことに親しみ、楽しさを覚えることで、全児童の「書く力」の向上を図ります。</p>	<p>○年度初めに第1・3・5学年の全児童へ教材を配布しました。</p> <p>○各学校では、授業の補助教材として活用し、朝の自習の学習や宿題等を活用し、書くことに親しみ、「書く力」の向上に努めました。</p> <p>○令和2年度から新学習指導要領が全面実施されるため、今年度、作文指導教材「書くって楽しいね」の改訂作業を行いました。より活用しやすい内容や形式に改訂しました。</p>	<p>○今後、各学校において指導訪問や学校訪問時に、本教材の活用方法を指導することや、区教研国語部会で活用方法について啓発するなど積極的な活用を図ってまいります。</p>	指導課
3	読書活動	<p>各学校で読書指導計画を作成し、読書の時間や機会の確保、読書週間の取組など、児童・生徒の発達段階に応じた読書活動の充実と読解力の向上を図ります。</p> <p>読書学習司書は、司書教諭を補助するとともに、学校図書館を活用した教育活動の企画や教員が図書資料を駆使した授業を行う際の補助業務を行い、学校での読書活動、学習活動を充実します。</p>	<p>○各学校は9月から10月までの任意の1か月間に、読書月間を設定し、児童・生徒の月間平均読書冊数の向上及び月間不読者率の改善に努めました。月間平均読書冊数は、平成30年度と比較し、小学生は、0.32ポイント増加しています。また、中学生の月間不読者数は、2.1ポイント減少しました。</p> <p>○全ての読書学習司書を対象に、読書学習司書研修会を、小学校は5月21日、中学校は5月28日に開催しました。学校図書館の活用方法等に関する講義受講や各学校の取組等に関する意見交換を行いました。</p>	<p>○小学生は月間不読者数、中学生は月間平均読書冊数が目標を達成できていないため、令和2年度は、各小中学校にて、全ての児童・生徒を対象とした朝の読書の時間を活用し、毎週計画的に読書活動を実施する必要があると見られます。</p> <p>○児童・生徒の読書に対する関心を高めるために、読書学習司書が、学校図書館を活用した授業及び学習支援等の専門性をさらに高めることに取り組みます。</p>	指導課

4	英語教育	中学校第3学年生徒の実用英語技能検定3級の取得率を向上させ、英語による読み書き、リスニング、会話といった包括的なコミュニケーション能力の向上を図ります。	○今年度から、中学校第3学年全生徒を対象に実用英語技能検定を実施しました。3月末時点での取得率は47.4%となっており、基準値となる平成30年度の割合32.8%から14.6ポイント向上しています。	B	○今後、大田区立中学校実用英語検定を継続することで、令和5年度での目標値である60.0%の達成に向けて、生徒の英語学習の意欲向上を図ります。	指導 課
5	外国語教育指導員	外国人の外国語教育指導員を配置して、ネイティブ・スピーカーの英語に触れることにより、小学校全児童及び中学校全生徒を対象に、日常的な会話や簡単な情報交換等ができるよう実践的コミュニケーション能力を培います。	○小学校第1・2学年では年8時間、第3・4学年では年25時間、第5・6学年では年40時間派遣し、学級担任等とのチームティーチングによる外国語活動を実施しました。	B	○国際社会に貢献できる力を育成するため、外国人とのコミュニケーション活動を一層充実させることができました。 ○今後、小学校においては、学習指導要領改訂に伴う第3・4学年の外国語活動を年35時間、第5・6学年の外国語科を年70時間の新設に向けて、令和2年度から外国語教育指導員による指導を第5・6学年において現在の年40時間から年60時間に拡充します。また、中学校においては、各学年の配置時数を10時間から21時間に拡充します。 ○小学校低学年においては、外国語に堪能な地域人材を外国語科学習指導講師として活用していくことが重要であると考えます。	指導 課
6	習熟度別少人数指導	英語、算数、数学では、児童・生徒の習熟度に応じて少人数学級を編成し指導を行い、児童・生徒一人ひとりの基礎学力を確実に定着させます。	○小学校第3学年から第6学年の算数及び中学校の英語、数学で一人ひとりの習熟度に応じて25人以下の少人数学級により指導を行いました。 ○小学校29校で算数及び中学校4校で数学及び英語の特別講師を配置し指導を行いました。	B	習熟度に応じて少人数学級を編成し指導を行うとともに、児童・生徒数に応じて区の特別講師を配置し、一人ひとりの基礎学力を引き続き推進させていただきます。	指導 課
7	理科教育推進拠点校	文部科学省教育課程特例校としての「サイエンスコミュニケーション科」、おおたサイエンススクール(理科教育研究推進校)の成果を生かし、区内小学校3校を理科教育推進拠点校として指定します。理科支援員の活用など、取組の成果を全小学校と共有し教育活動に生かすことで、理科好きなきな児童の育成を図ります。	○令和元年度から入新井第一小学校、萩中小学校、南六郷小学校が大田区教育研究推進校として、理科を中心とした校内研究に取り組みました。 ○おおたサイエンススクールとして清水窪小学校では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「サイエンス・コミュニケーション科」で育成する資質・能力や考えを広げ深めるコミュニケーションの姿として設定した「3つの対話」の指導について研究を進めました。 ○区内全公立小学校において理科支援員を小学校第3から6学年の全学級に20時間程度配置し、観察・実験等の体験的な学習について、教員の支援を行いました。	B	○令和2年度から清水窪小学校を含めた理科教育推進拠点校4校に小学校理科指導専門員を各1名配置し、全区立小学校へ巡回することで、理科の授業支援や教員への指導・助言を行い、授業力の向上を図っていきます。 ○清水窪小学校のサイエンススクールの取組について児童・保護者アンケートを実施したところ、9割以上が評価した結果となり科学大好きな子どもの育成ができました。今後とも、東京工業大学と継続的な連携を行うことで、清水窪小学校での取組の成果を全区立小学校と共有し、理科教育のさらなる推進に努めます。	指導 課

指導 課	<p>○科学の不思議さや楽しさを児童・生徒が体験しました。講座後のアンケートでは、科学の楽しさや不思議に思ったこと、さらに新たな課題を見出したりしている記述がみられ、科学への高い関心をもつ児童・生徒を増やすことができました。</p> <p>○応募倍率の高い講座があり、特に親子講座においては、多くの応募数があります。そのため、令和2年度は、親子講座の回数を増やし、多くの児童・生徒が受講できるように引き続き取り組みます。</p>	B	<p>○子ども科学教室を全21日28講座を5/18午前、6/8午前、7/6午前・午後、7/22午前、7/24午前、7/26午前、8/2午前・午後、8/6午前・午後、8/8午前、8/9午前・午後、1/26午前、2/8午前、2/29午前、親子講座7/13午前、7/31午前・午後、8/1午前・午後、8/20午前・午後、8/22午前、10/27午前、11/16午前、11/24午前・午後受講者631人で実施しました。</p> <p>○学習指導要領に基づく学習内容のうち、各学校で取り扱わない発展的な学習について取り上げ、観察・実験等の体験的な学習の講座を開設しました。</p>	<p>児童・生徒の科学的思考力や科学に対する探究心を育成するための事業として実施し、身の回りの自然現象に直接触れることを通し、自然に対する興味・関心を高めるなど科学教育の振興を図ります。</p>	子ども科学教室	8
指導 課	<p>○全小中学校が「流れる水のはたらき」における流水実験や理科のノート指導等、2学期以降に実施する単元において、授業計画を立て授業実践に生かすなどの研修の取組により観察・実験授業の実施を進めることができました。</p> <p>○今後は、より質の高い観察・実験授業を実施することを目指して、研修に取り組んでまいります。また、小中学校の教員は全科目の授業の指導に当たっており、理科を専門としていない教員も多いため、大学教授による実践的な研修により専門性を高める必要があります。</p> <p>○今後3年間で全理科教員を対象に全中学校の理科教員への観察・実験の授業を参観します。</p>	B	<p>○小学校理科授業力向上研修は全8日16講座を7/23午前・午後、7/26午前・午後、7/29午前・午後、7/30午前・午後、8/19午前・午後、8/22午前・午後、8/23午前・午後、8/26午前・午後受講者313人で実施しました。昭和女子大学特任教授と大妻女子大学教授から観察・実験中の安全指導や授業づくりの基礎・基本を習得し、指導力の向上を図りました。</p> <p>○中学校理科授業力向上研修は、理科教育指導員の指導により中学校7校各20人で全7日7講座を4/26、5/30、6/3、7/8、7/10、10/23、11/15に受講者140人で実施しました。</p>	<p>教員の指導力向上を図るため、小学校では夏季休業中において、外部講師による観察・実験授業の研修会を実施します。中学校では、観察・実験の授業公開を通して、中学校理科教育指導員から指導・助言を受ける研修会を実施します。</p>	小中学校理科授業力向上研修	9
指導 課	<p>○ものづくり教育学習フォーラムで様々な発表を行うことにより、児童・生徒や保護者、地域の方々の大田区のものづくり産業への興味・関心を高めることができました。また、大田区関連部局や大田区産業振興協会をはじめ、大田工業連合会との連携を推進することができました。</p> <p>○単に職場体験を通して学んだこと等の発表が多かったため、ものづくりに関連した職場体験発表を行うことが課題です。</p> <p>○各小中学校が共通で取り組むことができるものづくり学習のキャリアプログラム開発を行う教育研究推進校2校を令和2年度及び令和3年度の2年間指定して研究を進めます。</p>	B	<p>○各学校で関係する生活科、社会科、理科、図画工作科、家庭科、技術・家庭科、総合的な学習の時間、特別活動等においてものづくり教育を位置付け実施しました。</p> <p>○各学校で学習した成果を1月18日、来場者6,469人により実施したものづくり教育学習フォーラムで発表しました。</p> <p>○学習発表会は小学校9校、中学校5校(職場体験発表2校)、競技会は中学校9校18人が木工、中学校7校17人がソーイング、展示発表は小学校30校、中学校28校で参加しました。また、ものづくり体験は16の企業・団体の協力を得て小・中学生等が参加しました。</p>	<p>「ものづくりのまち」の特色を生かし、町工場などに従事する技術者・技能者の協力を得たものづくり学習を行い、児童・生徒のものづくりへの関心を高め、作ることの喜びや創造性に富み郷土を愛する心を培います。</p>	ものづくり学習	10

11	ものづくり科学スクール	<p>大田区のものづくり教育推進の一環として、身近にある最先端の科学技術に触れさせ、科学工作などを体験させることにより、ものづくりや科学の楽しさを教えます。</p>	<p>○ものづくり科学スクールの全10回を5/19、6/16、7/7、7/28、8/25、10/20、11/17、12/8、1/19、2/16に受講者162人で実施しました。</p> <p>○アルプスアルパイン株式会社の技術者を講師として招き、各講座でハンダ付けの工程を100回以上繰り返し体験させたり、電子回路やタイヤが回る仕組み、方向を変えながら進む仕組みを考えながら、光センサーで走る車型のロボット作りや、ICとその回路を結び、2オクターブの電子音が出る卓上ピアノ作りなどを行うなど、児童・生徒一人ひとりに丁寧に丁寧に分かりやすい講座を実施しました。</p>	B	<p>指導課</p> <p>○ものづくり教育推進の一環として、体験的な活動を通して、観察や実験を通して筋道を立てて考え、答えを出さず科学の原理を理解することにより、ものづくりや科学に興味・関心をもち、楽しさを味わうことができました。</p> <p>○講座によっては、応募人数が多く、受講できない児童・生徒が多くなるのが課題となっています。アルプスアルパイン株式会社からの協力をいただいているため、現状では講座数を増やすことは困難です。受講者を決める際は、できる限り未受講者を選ぶようにしていきます。</p>
12	電子黒板・タブレット・デジタル教科書などICT機器の配備	<p>ICT環境整備事業の成果を踏まえ、小中学校のICT環境の一層の充実をめざします。</p> <p>令和2年度から全面実施となる「プログラミング教育」の本格導入などを見据え、小中学校におけるタブレット端末の追加配備や特別教室への大型提示装置など、小中学校のICT機器のさらなる充実を進めます。</p>	<p>○全小中学校の少人数教室、特別教室(計581教室)に電子黒板(大型提示装置)、無線LAN、書画カメラを整備しました。合わせて、講師等共用タブレット端末を各校5台(計435台)と児童・生徒用タブレット端末を各校に40台(計3,480台)を配備しました(中学校は入替)。これらのICT設備は、夏季休暇期間を中心に配備の上、一部の学校で9月から利用を開始し、3学期から全校で利用を開始しました。</p> <p>○指導者用デジタル教科書を小学校で8種類(書写、地図、せいこく、音楽、図画工作、家庭科、保健、道徳)、中学校では7種類(地図、音楽、器楽、美術、保健体育)、技術分野、家庭分野)を配備しました。</p> <p>○ICT活用推進モデル校の北靴谷小学校、蒲田中学校による研究の成果により、令和元年度に区内全小中学校に、児童用タブレットを40台を追加配備しました。また、全校の少人数教室、特別教室へ電子黒板(大型提示装置)と無線LAN、書画カメラを導入することができました。</p>	B	<p>学務課 指導課</p> <p>○今後は、教員に向けたICT研修やICT活用推進リレーが一連絡協議会等において、ICT教育に対する教員の意識を高め、より効果的な活用方法の定着へとつなげていきます。また、ICT活用の成果を検証しながら、適正なタブレットの必要台数について検討していきます。</p> <p>○算教少人数教室や特別教室などに設置したICT機器を活用することで、全ての授業においてICT機器を活用した質の高い授業の実践に生かしていただけるようになる必要があります。</p>

13	教員のICT活用研修	<p>授業において積極的にICTを活用し、児童・生徒の学力の定着と学ぶ意欲の向上をめざします。そのために、職層に応じた研修を実施し、ICT活用に対する教員の意識を高め、より効果的な活用方法の定着へとつなげます。特に、児童・生徒用タブレット端末の活用方法に関する内容をまとめ、利用率の向上を図るとともに、より効果的な活用につなげます。</p> <p>また、外部機関との連携を図り、ICTに関する校内研修の充実を図ることや、ICT活用推進リーダーに向けた連絡協議会を実施することなどで、さらなるICT活用の啓発に取り組めます。</p>	<p>○主に初任者や異動後の転入教員を対象としたICT活用研修、全教員を対象として、各校を訪問するICT支援員が行う具体的な操作研修、各校のICT活用推進を担うリーダーを集めて行うICT活用推進リーダー連絡協議会を通じて、教員のICT機器を活用した授業力の向上を図りました。</p>	B	<p>学務課 指導課</p> <p>○転入教員や初任者に対して研修を行うことで、各教員の活用能力が高まり、各校の実態に応じた、効果的な授業が行われるようになりました。</p> <p>今後、ICT活用研修、ICT支援員が行う具体的な操作研修、ICT活用推進リーダー連絡協議会を通じて、組織的に教員のICT機器を活用した授業力を育成していきます。</p>
14	プログラミング教育	<p>物事をうまく解決する方法や手順を論理的に考えていく「プログラミング的思考」を身に付けるための教育を教科横断的に進めます。</p>	<p>○効果的な教材、教具を全小学校に配備することに加え、東京都が指定するプログラミング教育推進校である北糶谷小学校、矢口西小学校、おなづか小学校が各校1回実施した報告会へ788名の参加教員により、プログラミング教育実施に向けて、より実践的に学びを深めることができました。</p>	B	<p>指導課</p> <p>○東京都が指定するプログラミング教育推進校の報告会では、区内に整備された機器を活用して効果的に児童のプログラミング的思考を育成するための実践例が紹介され、参加した教員がプログラミング教育実施に向けて共有することができました。</p> <p>○今後は各校が実践を通して、創意工夫を重ね、さらに効果的な指導法について研究していくことが必要です。</p>
15	人権教育	<p>児童・生徒が、人権課題を学ぶことで、自らの権利と義務、自由と責任についての認識を深め、他者の人権を尊重することをばくくみ、生活の中に生かしていくことができる人権教育を推進します。</p>	<p>○5月18日に資料作成委員会を開催し、児童・生徒の発達の段階を踏まえた人権に関する学習資料について検討しました。</p> <p>○各学校に、人権に関する指導資料を全教員に、人権に関する学習資料を小学校第6学年及び中学生へ配布し、12月3日から10日までの人権週間の授業で活用しました。児童・生徒が記入した学習ワークシートの一部を取りまとめ、感想文集を作成し、各校へ配布しました。</p> <p>○12月4日から10日まで、池上会館を会場に、人権啓発作品展を開催しました。全小中学校から募集したもののうち、人権に関する習字及びポスター、標語の作品528点を展示し、1,973名の方が来場しました。</p>	B	<p>指導課</p> <p>○人権に関する学習資料及び人権に関する指導資料の作成に当たるとともに、資料と共に資料作成の根拠資料の提出を依頼し、配布資料の適正性をさらに向上させます。</p> <p>○人権啓発作品展に出品することを通し、各学校において多くの児童・生徒が人権に関する作品を作成し、それを鑑賞する機会が設定されています。作品制作や鑑賞を通して児童・生徒等の人権課題に対する理解を深め、解決への意識を高めます。</p>

16	道徳授業地区公開講座	保護者や地域住民など誰もが参加できる公開講座を開催します。 学校・家庭・地域が道徳教育への共通理解を深め、連携することで、子どもたちが他者を尊重し生命を尊ぶ心を育てます。	○各校が創意工夫を生かして、児童・生徒、保護者、地域の実態に応じた形式で授業公開及び意見交換会を実施しました。その結果、学校・家庭・地域が道徳教育及び要となる「特別の教科 道徳」への理解を深め、子どもたちを三位一体となって教育していくことの必要性について考えを深めました。	B	○今後は、講師に頼ることなく、各校が地域の特性を活かして自校の道徳教育に対する考え方を打ち出し、それに対して三位一体となった協議を行える意見交換会の実施が求められます。	指導 課
17	体験的な英語活動	外国語教育指導員と英語でのコミュニケーションを楽しむ英語カフェなどを充実します。 体験的な英語活動を通じ、外国の方々と進んでコミュニケーションを行う態度を育てるとともに、異文化に対する理解の促進を図ります。	○全小中学校で英語カフェを実施し、フリートーク、ゲーム、歌、絵本の読み聞かせなどを通して、英語によるコミュニケーションを行いました。また、外国語教育指導員派遣事業説明会において、効果的な実施方法について情報共有を図りました。 ○7月31日に全小中学校の第5学年194名が参加した大田区小学校イングリッシュキャンプを実施し、外国の文化を学ぶとともに、英語を通じた活動を行いました。	B	○全小中学校において英語カフェを実施し、自ら英語を使いたいという児童・生徒の活動を提供することができました。小学校英語カフェについては、今後小学校高学年において外国語活動が教科化されることを受けて、話すことや読むことの評価に係る取組になると考えられます。 ○身に付けた英語を実際に活用する場を充実させるとともに、外国語を用いたコミュニケーションへの関心・意欲を高めるための事業としてイングリッシュキャンプを継続することが必要です。その際、東京都の事業であるTokyoGlobalGatewayの積極的活用を図ることを検討していきます。	指導 課
18	中学校生徒海外派遣	海外（アメリカ合衆国・セーラム市、ドイツ連邦共和国・ブレメン市）でのホームステイを通して、外国の生活や文化の理解、並びに外国語（英語）の習熟などを図り、国際社会において信頼と尊敬を得られる人間性豊かな生徒の育成をめざします。	○7月20日から31日の期間、海外派遣を【Aコース】アメリカ合衆国セーラム、ドイツ連邦共和国ブレメン、ミュンヘンへ各校2名で28校が参加し全56名の派遣生徒が実施しました。 ○海外での生活体験を通して、外国の生活や文化の理解を深めるとともに外国語の習熟を図り、国際社会において信頼と尊敬を得られる人間性豊かな生徒を育成するため、本区の姉妹都市であるアメリカ合衆国セーラム市とドイツ連邦共和国ブレメン市を訪問しました。	B	○派遣生徒は、ホストファミリーとのホームステイ体験を通して、現地の方々とコミュニケーションを図ることができました。 【Aコース】マサチューセッツ州議会講堂やボストン日本国総領事館の訪問や、魔女博物館、ピーボディ・エセックス博物館等を見学し、セーラム市の歴史や伝統文化に触れ、多くのことを学ぶことができました。 【Bコース】ブレメン市庁舎やハンブルク日本国総領事館の訪問やドイツの歴史的建造物を見学するとともに、パン作りや自動車部品の組み立て体験等を行い、日本との違いなどについて学ぶことができました。 両コースとも精選されたプログラムが組まれており充実した内容となっておりますが、社会的ニーズも考慮しながら生徒にとってよりよいプログラムを検討していきます。	指導 課

19	<p>中学校特別支援教室 (サポートルーム)設置</p>	<p>東京都発達障害教育推進計画に基づき、令和3年度までに全区立中学校に特別支援教室(サポートルーム)を設置します。</p>	<p>○モデル実施校の特別支援教室専門員、令和2年度段階実施校副校長及び特別支援教育コーディネーターを対象とし特別支援教室推進研修会を3回実施しました。 ○特別支援教室(サポートルーム)概要及び実施の手引き(改訂版)、発達障害の可能性のある生徒に対する指導事例集、特別支援教室における指導内容の手引き(改訂版)の作成及び配布をしました。 ○大森第十中学校を拠点校に、巡回校6校で構成する馬込中・貝塚中・田園調布中・雪谷中・大森第六中・石川台中の7校1グループで、令和3年度に全ての中学校で特別支援教室の指導を円滑に開始するためのモデル事業を実施しました。 ○5月1日現在で利用生徒数は26人です。</p>	B	<p>○研修会や冊子の作成・配布により、教員の特別支援教室での指導に対する理解促進をすることができました。 ○モデル事業を検証したことで、特別の指導を計画通り確実に受けるようにするという小学校の特別支援教室とは異なる課題が確認できました。 ○令和3年度の中学校全校実施に向け、引き続き環境整備に取り組みます。</p>	<p>学務課 指導課</p>
20	<p>日本語特別指導(初期指導)</p>	<p>日本語指導が必要な外国人児童・生徒や、海外から帰国した児童・生徒を対象に個別や小集団による日本語指導を行います。</p>	<p>○小学生133人、中学生27人を対象に、指導員を派遣し、日本語特別指導(初期指導)を実施しました。 ○日本語指導検討委員会を2回、6/28、1/21に開催し、日本語特別指導及び日本語学級における指導状況及び指導内容について情報交換を行うとともに、日本語特別指導から日本語学級への円滑な連携の在り方について検討しました。</p>	B	<p>○日本語特別指導(初期指導)について、最大80時間を上限として実施し、専門の指導員を各学校に派遣し、日本語の理解が不十分な児童・生徒を指導することができました。 ○今後も、児童・生徒一人ひとりに応じた支援ができるよう、指導の充実を図っていくとともに、学校生活におけるコミュニケーション能力、授業への適応力の向上につなげていきます。</p>	<p>指導課</p>
21	<p>日本語学級(蒲田小・中)</p>	<p>区立小中学校に就学している日本語特別指導(初期指導)を終了した児童・生徒に対して、日本語による学習適応力の更なる向上のため学習言語の習得を支援します。</p>	<p>○蒲田小学校で、教科学習等を充実させるために必要な日本語指導を59人に実施しました。 ○蒲田中学校で、教科学習等を充実させるために必要な日本語指導を44人に実施しました。</p>	B	<p>○蒲田小学校では、少人数制の指導により、個々の児童の習得状況に応じたきめ細やかな指導を行うことができました。蒲田中学校では、日本語指導だけでなく教科指導にも力を入れ、生徒がより充実した学校生活を送れるようにサポートすることができました。 ○今後も児童・生徒数の増加に応じた対策を行い、引き続き少人数制の指導に取り組みます。</p>	<p>学務課 指導課</p>
22	<p>食育推進チームによる指導</p>	<p>全校に食育推進チームを組織し、学校における食育推進の中核となる食育リーダーを配置します。また、指導の全体計画と各学年の年間指導計画を作成し実践します。</p>	<p>○全小中学校で学校における食育推進の中核となる食育リーダーを教員の中から指名して、食育推進チームを組織し、教科等の内容と関連付けた指導を行うことにより、様々な食育を実践しました。 ○栄養教諭3名と食育推進委員会が、食育に関連する指導の全体計画を作成し、授業研究を2回実践し、総参加人数は118名でした。</p>	B	<p>○令和2年度は小中学校で、食育リーダーや栄養士等を対象とした食育に関する授業を小学校は10月、中学校は11月に予定しています。</p>	<p>学務課 指導課</p>

23	がん教育(喫煙防止など)	日本人の2人に1人が罹患すると言われているがんについて、現状や発生原因、予防や早期発見の重要性など、正しい知識を身に付けることを目的としたがん教育を充実します。	<p>○大田区学校保健会と連携し、外部講師を活用したがん教育の一環として喫煙防止教育を小学校19校、中学校3校で実施しました。</p> <p>○小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に、学校医及び学校歯科医が講師として各学校に出向き、大田区学校保健会が作成した教材を用いて、クイズやロールプレイングを交えた参加型形式で実施しました。</p>	B	<p>○喫煙防止教育を実施し、子どもたちが、がんに対する正しい知識をもつことで、健康と命の大切さについて学ぶことができました。</p> <p>○大田区学校保健会と連携して、喫煙防止教育の教材や授業方法の見直しを行うなど、引き続きがん教育の充実が必要です。</p> <p>○がん対策推進基本計画(平成24年6月)において、子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを旨とし、健康教育全体の中でがん教育をどのようにするべきか検討していきます。</p>	学務課 指導課
24	体育・健康教育授業 地区公開講座	小学校体育・健康教育の授業公開や体力調査結果の公開を含めて講演会や懇談会を実施することで、子どもの体力向上について考えとともに、保護者や地域住民への啓発を行います。	<p>○小学校59校において、体育・健康教育授業地区公開講座を実施しました。体育の授業以外に、朝のマラソンの実施や休み時間の公開、保護者参加型の授業を設定するなど工夫により、保護者・地域の方の参加者増につなげました。</p>	B	<p>○体育・健康教育授業地区公開講座を実施することで、保護者、地域の方々が参加し、講師による講演や意見交換会等を行うことで、体力向上の必要性の認識や家庭での運動習慣等を広く啓発することができました。</p> <p>○児童の体力向上については、家庭における計画的・継続的な取組が重要であることから、引き続き保護者の意識啓発に取り組むことが必要です。</p>	指導課

## 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る有識者意見

元跡見学園女子大学教授 堀内一男

### 【プロフィール】

- ・公立中学校教員、東京都教育委員会指導主事、中学校教育指導課長、中央区立銀座中学校校長等を経る
- ・杉並区和田三丁目西町会会長
- ・新おおた教育振興プラン策定懇談会委員（現おおた教育ビジョン）

### ビジョン1 社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を育成するについて

・「豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる」をキャッチフレーズにした「おおた教育ビジョン」が公にされ、実施されてから1年が経過した。新型コロナ禍による臨時休業続きで、事業開始が遅れたものもあったが、毎回の「おおたの教育」新聞紙上で「未来を創る子どもたち」「豊かな成長」の啓発記事を見ることができ、教育委員会の本気度に触れると共に、各学校に「今後4年間で到達したい自校の学校創りイメージを持ってほしい」という願いを持ちはじめた。

・1年経過したところで、ビジョン1「社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を育成する」を中心に、現時点での点検・評価とプラン策定委員の想いをまとめた。

・点検・評価の視点は、次のとおりである。

- ①「未来を創る力」がどのように認識され、イメージ化され、広まっているか。
- ②各学校では、「ビジョン1」のどのような内容に関心を抱き、課題をとらえ、実践策をイメージし、取り組み方を工夫しているか。
- ③評価委員の立場から、現在考えている教育委員会や学校に対する要望。

・コロナ禍は、令和2年度1学期の学校教育をうろたえさせてしまったが、だからこそ配慮しなければならないことと新たな発見もあったのではないだろうか。

## 個別事業に対する意見

事業名	読書活動
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書の時間や機会を計画的に確保し、図書館活用が比較的盛んな小学校に対して、利用回数や読書量が急激に減少している中学校の実状をどのように改善したら良いのかの具体策がほしい。</li> <li>・ 「読書好きな子ども」は幼い時期から「多くの読み聞かせに触れていた子ども達」という調査報告がある。「本の楽しさ」を味わった体験は「一生の財産」であり、この体験を増やす方を大切にしたい。</li> <li>・ 大田区でも、読書学習司書が各学校に派遣され、図書館が一気に整備され、明るく利用しやすい雰囲気になってきている。PTAや地域のボランティアの「読み聞かせ」や図書館整備への協力も進められている。</li> <li>・ 中学校国語科の「教科書教材」の扱いを、図書館活用のきっかけにしたり、各教科の学習内容の関連図書の紹介等も教科担任との連絡を密に行ってほしい。教科や総合学習の課題を示し、「調べる学習」の雰囲気づくりも大切である。</li> <li>・ 中学校では、部活動もあり開館時間が短い、昼休みと放課後の一定時間を開館にするために、司書の勤務時間を調整し「放課後も開いている図書館」「ホッとできる図書館」の位置づけもほしい。</li> <li>・ 今後、学校図書館の開館に向けて、保護者・地域などの協力も必要となるが、地域の方々への開放も視野に入れても良いのではないか。</li> </ul>
事業名	小学校漢字検定
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年ごとに配当され指導されている漢字は、毎日の生活に必要な基礎的な知識であり、生涯に役立つ学力の基本といえよう。</li> <li>・ 検定という場を通して、自分自身の習熟度を確認し、次の目標に向かって努力する活動は、全ての学習活動の原点ともいえる。目標を達成した喜びは、低学年の時代から全児童に味わわせたい生活体験である。</li> <li>・ しかし、このような結果が見える学習体験が不得意な児童も多い。検定合格にむけた学習体制に、教え合い、励まし合う工夫を加えてほしいし、お互いの合格を喜び合う雰囲気づくりも大切なことである。</li> </ul>
事業名	小中学校理科授業力向上研修
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大田区の小中学生の学力は着々と向上しており、教育関係者のご努力に感謝申し上げたい。しかし、社会・理科の学力の伸びが高まらないのはどこに要因があるのだろうか。教師の意識改革がほしい。</li> <li>・ 理科の学習対象は、生物・地学・物理・化学と広く、直接観察して分かることと、実験・分析を重ね、解釈して理解する学習内容があり、教師自身の学習体験も浅く、「不得意教科」となっていることが多い。</li> <li>・ 従って、観察や栽培を行い、分析・整理して理解させる学習内容はともかく、直接見えない事物・現象を実験し、見える形にして理解させる科学的な見方・考え方を深める学習方法の研修が求められる。</li> <li>・ 現在、3名の理科教育指導員が、各中学校からの求めに応じ巡回し、指導方法改善のため助言・指導を行っているが、今後、特に各小学校では、現状の理科学習の弱点を自覚して欲しいし、現在指定されている理科教育推進拠点校の研究成果等に関心を持ち、各校の実験・観察のある授業改善に役立ててほしい。理科専科教師の配置も望ましいが国・都の動きを見つめながら対処しなければならないだろう。</li> </ul>

事業名	「ものづくり学習」の定着
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大田区の一角には、住宅と工場が一体化した各種機械や電気製品の部品工場等の先進技術をもつ「ものづくりのまち」が点在する。</li> <li>・ 子どもたちは、あまり意識せずに生活しているが、身近な地域を観察し、伝統的な高い技術力を生かしている「ものづくりのまち」の存在に気づいたとき、社会科の地域理解やキャリア教育の学習対象として、興味・関心を抱くのではないだろうか。</li> <li>・ 各学校では、全教科・領域で「ものづくり学習」を位置づけて取り組み、その学習成果を「ものづくり教育学習フォーラム」で、企業の協力も得ながら交流していることに拍手をおくりたい。</li> <li>・ 生徒たちの高まった関心は、レポートとしてまとめ、郷土を知り、愛する心を培い、徐々に大田区全体に広めていきたいものである。</li> </ul>
事業名	電子黒板・タブレット・デジタル教科書などICT機器の配備
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育機器が、多くの予算を用いて着々と整備され、教師のICT機器活用技術も高まり、毎日の授業内容も分かりやすく、変化に富んだものになりつつあることが素晴らしい。学校間差、教員間差も区内・校内の研修会の実施で狭まりつつあることも嬉しいことではある。</li> <li>・ しかし、機器を用いた授業時数が多くなったことは実態であるが、なぜその機器を用いて子どもたちの理解や思考を深めようとしているのかという「学習のねらいや効果」を常に意識し、区内の学習機器活用の交流・伝達の研修は、継続してほしい。</li> <li>・ 今後、国や都の「教育機器の活用構想」の具体化が進展するであろうが大田区でも「なぜ、その機器を活用するのか」の問いかけを忘れずに、時には機器活用の規制も緩やかにして、活用のアイデアを広げる工夫も忘れないでほしい。</li> </ul>
事業名	体験的な英語活動の場を生み出す
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科としての英語も誕生し、低学年児童にもネイティブ指導者が配置され、小学校の英語専科教師の誕生も近い。大田区にとって、国際社会への玄関口の羽田空港の発展も追い風であり、チャンスである。</li> <li>・ 条件は揃ってきた。課題は、身近に習った英会話を楽しく使える場をどのように創るかではないだろうか。</li> <li>・ 学校や地域に、保護者やボランティア、学生や留学生などの協力を求め、気軽に英会話を楽しむことのできる「英会話サロン」「英語カフェ」等を創ってほしい。教室で緊張しながら話した英語、会話が成立した瞬間の喜びなどを思い出しながら、「気軽に英会話を楽しんでいる大田区の子供達」の看板を掲げても良いのではないか。</li> <li>・ 学校の部活動、児童館での取り組み、地域の青少年育成委員会での活動、町会の協力など活動形態にとらわれず、主旨を生かし、行政がバックアップしてほしい。活動が進み継続されたとき、触発され国際社会に飛び出そうとする子供達の存在を確認することができるのではないだろうか。</li> </ul>
事業名	食育推進チームによる指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充実した食生活は、毎日の生活を豊かにし、子供達の元気の源となるのではないだろうか。</li> <li>・ 学校が発信できる「食育」は、授業を通じた健康・保健教育と毎日の給食を軸にした子ども達や家庭生活への「望ましい食生活の啓発」といえないだろうか。</li> <li>・ そのために、校内にある食育推進チームを組織し、食育リーダーを配置することは理想であるが、授業を持つ教師にはかなり無理な要望である。栄養士の全校配置を急ぎ、計画的に年間の啓発活動を積み上げたとき、各学校に相応しい「給食指導を基にした食育」のプログラムとその成果が得られるのではないだろうか。</li> <li>・ 給食に対する子ども達の嗜好や感想を大切に、家庭や保護者に向けた給食情報の意図的な発信は、(例えば、「子ども達の好む給食とそのレシピ」「給食で提供した外国料理」「子ども達の食物アレルギー」など)家庭での食生活のあり方に影響を与えるものと信じている。</li> <li>・ 地域の方に対する「現在の学校給食の試食会」は大きな反響を呼ぶ活動であり、保護者や地域に対する「食育の向上」に役立つ行事になっているといえよう。</li> </ul>

## その他、大田区の教育に望むこと

○ 私自身は、大田区の中学校28校のうち、校内研修会や関わっていた「留学生が先生！プログラム」の引率者等として、20校以上に訪問させていただいた。中には、10回以上の訪問校も数校ある。そこで感じたことは、各学校が伝統的な地域特性に支えられ、「一校一校の個性や校風が光る学校群像」であった。

学校長の「学校づくりの方向性」に合意した学校大好きな先生方や主事さん方のやる気集団の協力、そして保護者や地域の方々のバックアップ体制などにより、生徒たちはその中で大きく成長する。1年で素晴らしく変容する学校像にも沢山出会った。

○ 今、教育委員会は、大田区の伝統ともいえる「各学校とのきめ細かな関わり」を基盤にして、「おおた教育ビジョン」のプラン1「未来社会を創造的に生きる子どもの育成」の24の事業実績について点検、評価を行い、各学校に向けて目標値達成に向けた今後の方向性を、そして教育委員会自身の努力目標を指し示してくれた。

○ まだ、初年度。各学校は、「おおた教育ビジョン」の描いた、たどり着きたい「未来を生きる子ども像」のイメージを鮮明にして、自校で取り組める教育活動の重点を意識的に工夫し、地道な努力を積み上げてほしい。大田区の小中学校87校に特色ある教育活動が位置付き、交流が始まったとき「未来を生きる大田区の子ども像」が誕生するのではないだろうか。

令和元年度  
おおた教育ビジョンの事業実績と評価  
～大田区教育委員会行政評価結果報告書～

令和2年10月  
発行 大田区教育委員会  
〒144-8623 東京都大田区蒲田5-37-1  
ニッセイアロマスクエア5階  
電話 03-5744-1423